

金融広報アドバイザーとは、金融広報委員会からの委嘱を受け、各地において暮らしに身近な金融経済等に関する勉強会の講師を務めたり、生活設計の指導や金融・金銭教育などを行う金融広報活動の第一線指導者です。

金融広報 アドバイザーの 紹介

明るく楽しく前向きに！ 受講生に勇気と希望を与える 元気印のアドバイザー

「二生涯現役で。そのためには明るく楽しく前向きに」を自らのキャッチフレーズにしている横江光良さん。講演会や勉強会では受講者の方々に「希望と元氣、勇気を与える」ことを目標にしています。

* * * * *

横江さんのテーマの中心はいつも「人生はこれから」。これは、「将来になりたい自分、やりたい仕事を見つけ、社会に役立ち喜ばれることで収入を得てほしい」というメッセージです。興味深いのは、それが高校生を対象とするキャリアデザイン講演はもちろん、60代を対象とするリタイアメントプランの講演でもスタンスは同じという点です。「どの年代であっても、今までの経験や知識を活かして社会に役立つことはいくらでもあることを知ってもらいたい」という思いが込められています。

実際、横江さんの講演をきった



大手楽器メーカーから保険会社に転職したのち、昭和58年に保険代理店として独立。各保険業資格のほか、平成9年にCFP®を取得。平成16年に金融広報アドバイザーに就任し、同年NPO法人を立ち上げ、以来毎月金融に関する市民講座を開催中。現在、金融広報アドバイザーに加え、保険・金融・ライフプランに関する研修講師として全道を飛び回るほか、札幌学院大学、札幌国際大学の講師としても活躍中。

けに、リタイア前後の人たちが、「何か新しいことを始めよう」とファイナンシャル・プランナーの資格取得などに挑戦することも多いそうです。

「そうして60代、70代の人々が結構合格するんです。『知らないことがあれば知っている人に聞けばいいけれど、もっといいのは、自ら学んで人に教えたり、学んだことを人々のために活かすことですよね』という、みなさん納得されるんで

す。私が少し元氣を注入することで、もう少し頑張ってみようかなって思ってもらえる。これがやり甲斐ですね」と横江さんは話します。

横江さんの講演にそこまで影響力があるのは、横江さん自身がい「人生いくつになっても不可能はない」ことを実現し、証明してきた人だからです。40代で一念発起して完走したフルマラソンを皮切りに、トライアスロン、クロスカントリ、サックス、演劇など、仕事

以外のさまざまな趣味を見つけて本気で挑戦し続けています。

「いろいろな趣味や技能や資格など、今ある自分の世界以外のものに触れ、仕事以外の交友関係を広げること、人生の幅も広がり、いろいろな価値観を持つことができ、そこから得るものも大きいのですよ」というわけですよ。

金融広報アドバイザーとして、日々豊富な話題で受講生を楽しませている横江さん。自ら「明るく楽しく前向きに」生きる姿勢こそが、横江さんの目標である「希望・勇気・元氣」を人々に与え、心を動かす原動力になっているようです。

「金融広報に携わることで、私は張り合いのあるステージをいただいています。健康の続く限り、一生涯現役で自分の人生劇場を堂々と演じきっていきたいですね」と横江さん。目標は世界最高齢の125歳だそうです。

北海道金融広報委員会
金融広報アドバイザー
横江光良